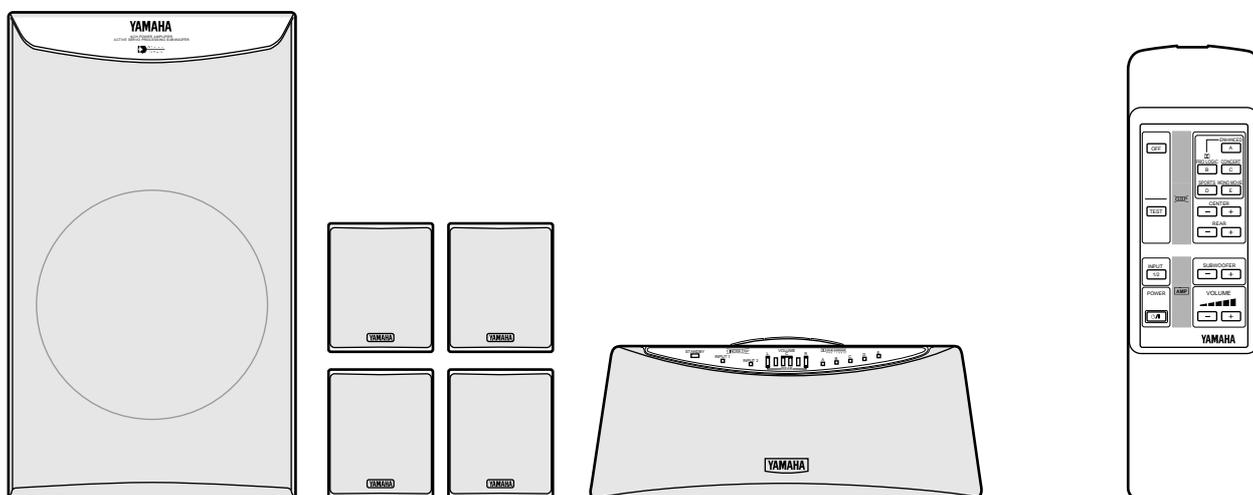


# YAMAHA

ホームシネマサウンドシステム

# AV-S7

## 取扱説明書



このたびは、ヤマハホームシネマサウンドシステムAV-S7をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございました。AV-S7の優れた性能を十分に発揮させるとともに、未永くご愛用いただくために、この取扱説明書をご使用前に、必ずお読みくださいますようお願いいたします。お読みになったあとは、保証書とともに保管してください。

本機は電気用品取締法に定める技術基準に適合しています。

ご使用前に必ずお読みください。

### 目次

安全上のご注意 .....	2 ~ 3
特長 .....	4
はじめに .....	5
ようこそ！ヤマハCINEMA DSPの世界へ .....	6
お使いになる前の準備（設置と接続） .....	7 ~ 17
各部の名称とはたらき .....	18 ~ 19
基本操作 .....	20 ~ 21
音場効果を楽しむ .....	22 ~ 26
故障かなと思ったら .....	27 ~ 28
仕様について .....	29
ヤマハホットラインサービスネットワーク .....	30

# 安全上のご注意 (安全に正しくお使いいただくために)

ご使用前に必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みになり、正しくお使いください。またお読みになったあと、いつでも取り出せる所に必ず保存してください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



## 警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

設置されるとき		使用中に異常が発生したとき	
<p>本機に水を入れたり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。表示された電源電圧交流100V以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。本機を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災の原因となります。電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。</p>	<p>電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。</p>	<p>万一機器の内部に水や異物が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。</p>	<p>万一、本機を落としたり、キャビネットを損傷した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。</p>
ご使用になるとき		<p>絵表示の例</p> <p>記号は注意(危険・警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。</p> <p>指を挟まれないよう注意</p> <p>分解禁止</p> <p>記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。</p>	
<p>本機の上に水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。本機の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落し込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。</p>			
<p>本機のキャビネットは絶対に外さないでください。感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。本機を改造しないでください。火災・感電の原因となります。</p>			

# 注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

設置されるとき	ご使用になるとき
<p> 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。</p> <p>電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。</p> <p>直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。</p> <p> 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。</p> <p>電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがありますので、次の点に注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本機を押し入れ、本箱など風通しの悪い狭い所に押し込まないでください。</li> <li>・テーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや、布団の上に置かないでください。</li> </ul>	<p> 接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続には指定のコードを使用してください。再生を始める前には音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。</p> <p>付属のリモコンに電池を挿入する場合、極性表示（プラス⊕とマイナス⊖の向き）に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。</p> <p> 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。</p> <p> 旅行などで長期間本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。</p>
<p> 本機を設置する場合は放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。天面から20cm以上、背面から10cm以上のすきまを開けてください。</p>	<p><b>お手入れについて</b></p> <p> 1年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご相談ください。本機の内部にほこりがたまったら、長い間掃除しないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。</p>
<p> 移動する場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。</p>	<p> お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。</p>

テレビに本機を接続するだけで、迫力と臨場感あふれるホームシネマサウンドを実現

6チャンネルパワーアンプを内蔵したサブウーファー部、コントロール機能を配したセンタースピーカー部を中心としたニューデザイン/コンセプトのコンパクトシステム

フロント2台、リア2台、センター1台、サブウーファー1台の6スピーカーシステムで、迫力と臨場感にあふれる音場再生を実現

サブウーファーには、豊かな重低音を再生するヤマハ・アクティブ・サーボ・テクノロジー（YST）を搭載

映画、コンサートからスポーツ観戦まで、様々なソースに迫力と臨場感を与える5種類の音場プログラムを搭載

ドルビー処理された映像ソフトの音場を忠実に再現するドルビープロ・ロジック搭載

フロント、リア、センターは30W/ch（定格出力）、サブウーファーは50W（定格出力）で、迫力ある音が楽しめます

機能を厳選したシンプルオペレーション

操作性重視のシンプルリモコン

映画鑑賞中も気にならない、光をおさえたインジケーター

## 保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、購入店でかならず保証書の手続きを行ってください。保証書に販売店名、購入日などがないと、保証期間中でも万サービスが必要がある場合に実費をいただくことがありますので、充分ご注意ください。



これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。  
音楽を楽しむエチケット

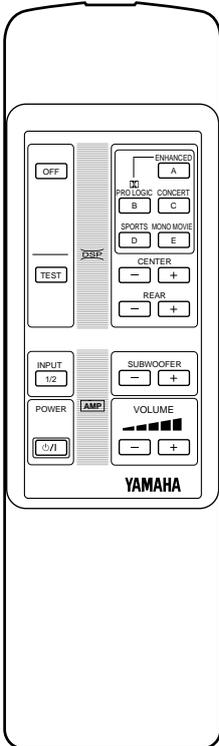
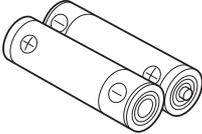
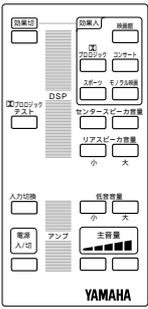
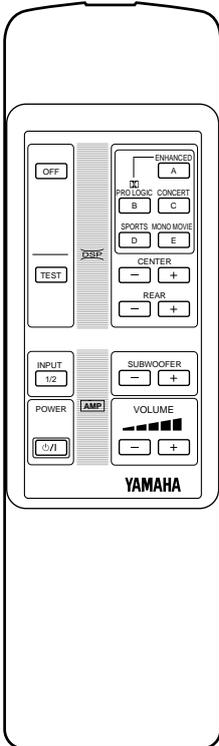
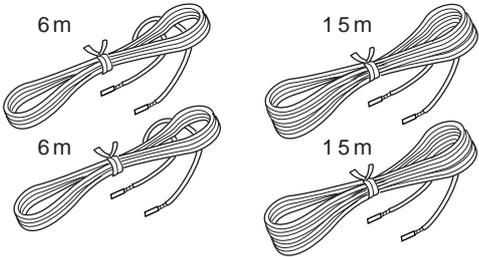
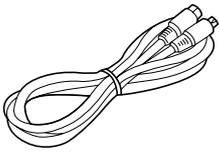
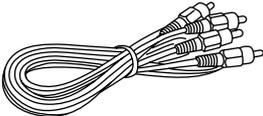
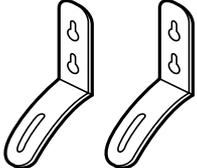
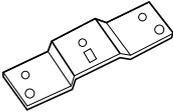
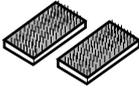
楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

# はじめに

## はじめに、次のことをお確かめください

- 1 保証書にお買い上げ店名を記入してもらいましたか？
- 2 付属品はすべて揃っていますか？

### 付属品

<p>リモコン</p> 	<p>単3乾電池 2本</p> 	<p>日本語表示シール (リモコン用)</p> 
	<p>スピーカーコード (6m : 2本、15m : 2本)</p> 	<p>システムコネクターケーブル (3m : 1本)</p>  <p>ピンコード (2P) (3m : 1本)</p> 
<p>スピーカー取り付け部品</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="148 1697 379 1765"> <p>Aタイプ×2 (センタースタンド)</p>  </div> <div data-bbox="448 1697 699 1765"> <p>Bタイプ×2 (ウォールブラケット)</p>  </div> <div data-bbox="762 1697 922 1765"> <p>Cタイプ×4 (ブラケット)</p>  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div data-bbox="1098 1619 1233 1653"> <p>ネジ (4本)</p>  </div> <div data-bbox="1114 1783 1270 1816"> <p>蝶ネジ (2本)</p>  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div data-bbox="1090 1933 1337 2000"> <p>センタースピーカー 固定テープ (2セット)</p>  </div> </div>		

# ようこそ！ ヤマハCINEMA DSPの世界へ

ヤマハAV-S7は、映画館やコンサートホールで体験するような臨場感をお茶の間に再現する、デジタルサウンドフィールドプロセッサー（DSP）を搭載しています。

部屋を映画館に  
変える音  
CINEMA DSP

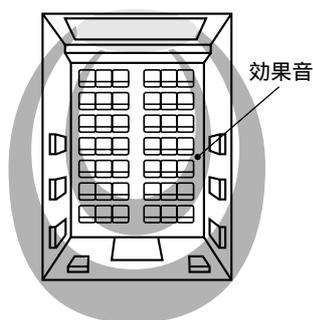
映画の音場再生方式；ドルビーステレオは、映画館の広い空間に多数のサラウンドスピーカーを観客の回りに配置して再生することを前提としています。

したがって、映画のソフトを再生しても、再生環境の異なる私たちのリスニングルームでは、映画館で体験したような迫力と臨場感を得ることは困難でした。

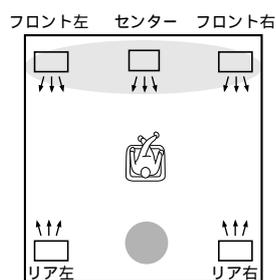
本機は、ドルビーステレオを家庭で再現できるように開発されたドルビープロ・ロジックと、ヤマハ独自のDSP技術を融合させた「CINEMA DSP」<sup>シネマ ディーエスピー</sup>を搭載しています。

ドルビー処理されたソフトを「CINEMA DSP」<sup>シネマ ディーエスピー</sup>音場プログラムを使って再生すると、迫力と圧倒的な臨場感にあふれたホームシアターサウンドを体験することができます。

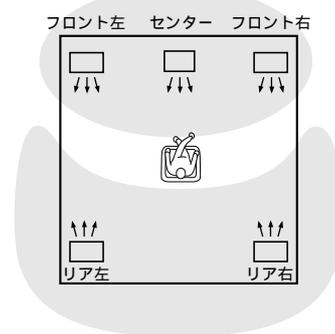
映画館の音場再生



家庭でのサラウンド再生



CINEMA DSPによる音場再生



ソフトに合わせて  
選べる  
音場プログラム

ヤマハでは、世界の著名なコンサートホールやライブハウスなどでの音場情報を実際に測定し、その膨大なデータをメモリーICに蓄積しています。本機は、それらの音場を再現するプログラムを搭載していますので、著名ホールやライブハウスの音場をご家庭のリスニングルームに再現することもできます。

\* 音場とは：「その空間が持つ特有な音の響き」を音場と呼んでいます。

臨場感の決め手、  
迫力の重低音

低音は、映画の臨場感や迫力を決める重要な要因です。本機のサブウーファーはYST（ヤマハ・アクティブ・サーボ・テクノロジー）という独自の方式で低音を再生。コンパクトなサイズでありながら、迫力の重低音を再現します。

# お使いになる前の準備（設置と接続）

ヤマハAV-S7をお使いになる前に、下記の手順に従って準備してください。

## リモコンの準備 8ページ

リモコンに付属の乾電池を入れます。

## 1 スピーカーの置き場所を決めます。 9ページ

DSPの効果を十分に発揮させるためには、スピーカーを正しく配置する必要があります。

## 2 フロント/リアスピーカー（NX-AV1）を接続します。 10から11ページ

付属のスピーカーコードを使います。

## 3 ビデオデッキやテレビを接続します。 12から13ページ

色々なソース（音源：ビデオやCDなど）が楽しめます。

## 4 センタースピーカー（NX-AVS7）とサブウーファー（SW-AVS7）を接続します。 14ページ

## 5 電源コードを接続します 14ページ

電源コードは必ず最後に接続します。

スピーカーを固定したり、壁などに取り付ける方法が記載してあります。  
15から17ページ

リモコンの準備

乾電池を入れる



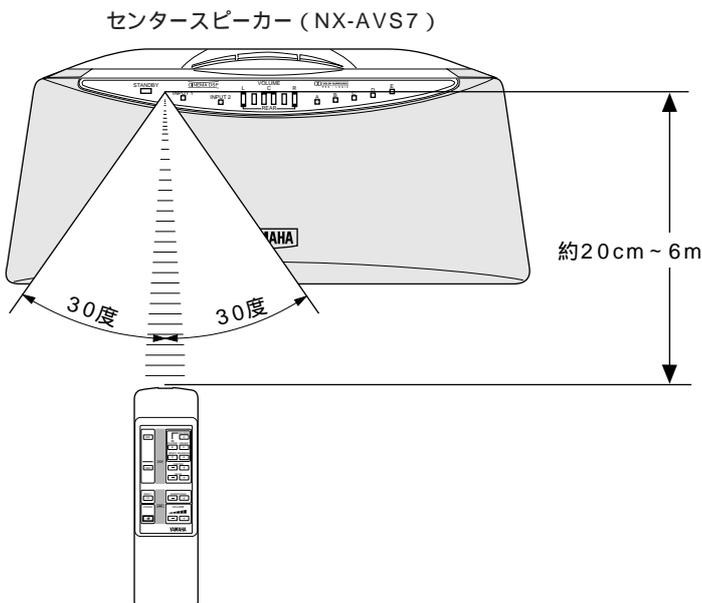
乾電池のご注意

乾電池は誤った使いかたをすると、液もれが起きたり破れつすることがありますので、次の点に特に注意してください。

乾電池のプラス⊕とマイナス⊖の向きを電池ケースの表示通りに正しく入れてください。  
新しい乾電池と一度使用した乾電池をまぜて使用しないでください。

種類のちがう乾電池をまぜて使用しないでください。同じ形状でも性能や電圧の異なるものがあります。  
乾電池が使えなくなったり、リモコンを長い間使わないときは、乾電池を全部取り出してください。  
充電式の乾電池はご使用になれません。  
液もれが起こったときは、ケースの中についた液をよくふき取ってください。

リモコンの使用範囲



乾電池の交換時期は

リモコン操作できる距離が短くなったときは、乾電池を2本とも交換してください。

リモコン取扱上の注意

センタースピーカーのリモコン受光窓とリモコンの間に障害物があると、操作できないことがあります。  
リモコンには衝撃を与えないでください。また、水にぬらしたり、湿度の高いところには置かないでください。  
受信部に直射日光や強い照明（インバーター蛍光灯など）が当たっているとリモコンが働きにくくなります。照明または本体の向きを変えてください。  
他の機器のリモコンを同時に使うと、操作できないことがあります。

## スピーカーの置きかた

スピーカーは図の設置例を参考に置いてください。バランスの良い音場効果がお楽しみいただけます。

テレビの両脇に置くスピーカーをフロントスピーカーと呼びます。NX-AV1を使います。

テレビの上または下に置くスピーカーをセンタースピーカーと呼びます。NX-AVS7を使います。

うしろに置くスピーカーをリアスピーカーと呼びます。NX-AV1を使います。

センタースピーカー（NX-AVS7）とサブ（スーパー）ウーファー（SW-AVS7）を除いた4台のスピーカー（NX-AV1）はすべて同じ規格です。4台のうち、どのスピーカーでもフロントおよびリアに配置できます。

### フロントスピーカー NX-AV1

テレビの左右に設置します。

高さは、画面のセンターより下に設置します。

### センタースピーカー NX-AVS7

画面中央の上（または下）に設置します。

### サブ（スーパー）ウーファー SW-AVS7

フロントスピーカー付近に設置します。

### リアスピーカー NX-AV1

視聴ポジションより後方（または側方）に設置します。

### フロントスピーカー

従来のステレオ再生と同じように、左右のスピーカーをリスニングポジション（聴く場所）から等距離のところに置きます。テレビを設置しているときは、左右のスピーカーとテレビとの距離を同じにします。

### センタースピーカー

センタースピーカーはテレビ画面とスピーカーの前縁をそろえ、テレビの上、下またはラック内など、できるだけテレビ画面に近いところに設置してください。

### リアスピーカー

お部屋の状況に合わせて、床や棚に置いたり、壁に掛けることもできます。

### サブウーファー

左右どちらかの外側で、壁の反射を防ぐため、少し内側に向けて置きます。低音の聴こえかたは、サブウーファーを置く位置と聴く位置の両方に影響を受けますので、設置場所を変えてお試しください。

### ご注意

本機のスピーカーは防磁タイプですが、テレビの近くで使用して、テレビの画面に色むらが起きる場合はスピーカーとテレビの距離を離してください。

消磁機能があるテレビをご使用の場合は、次のように対処してください。

- 1 テレビの電源を切る
- 2 30分たってから、もう一度テレビの電源を入れる

色むらが起こらなければ、そのままの状態でお使いになれます。それでも色むらが起きるときは、スピーカーとテレビとの距離を離してください。

放熱を良くするために、サブウーファーは上面20cm、背面10cm、側面10cm以上の隙間を開けて設置してください。

## スピーカーの接続

スピーカー接続端子について  
サブウーファーの後面にあります。

付属のスピーカー（NX-AV1）以外は接続しないでください。（他のスピーカーを接続した場合、故障の原因になります。）

### メモ

スピーカーコードの両端には、フロント左右、リア左右を識別するために「FRONT L」「FRONT R」「REAR L」「REAR R」の表示が付いています。表示に従って接続すると間違いが防げます。

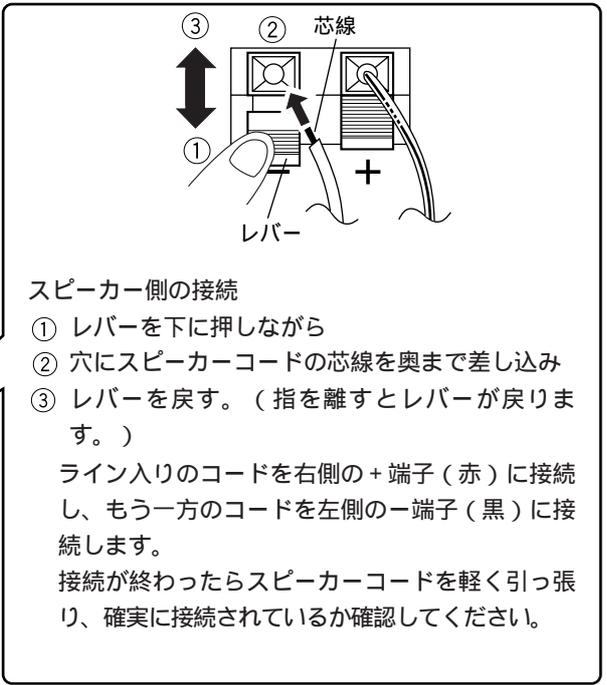
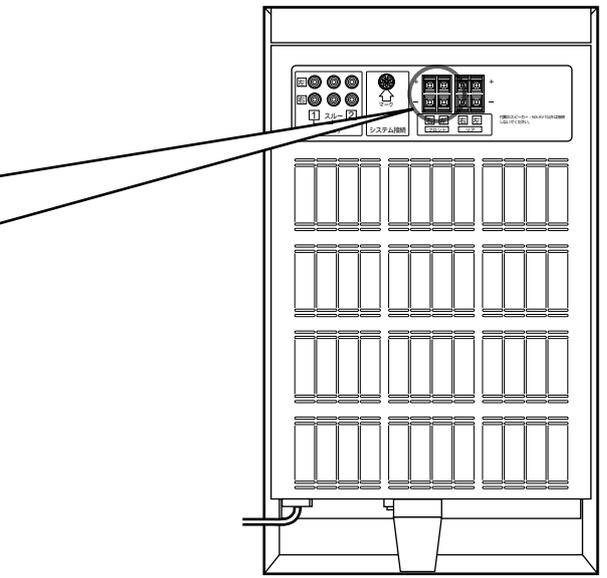
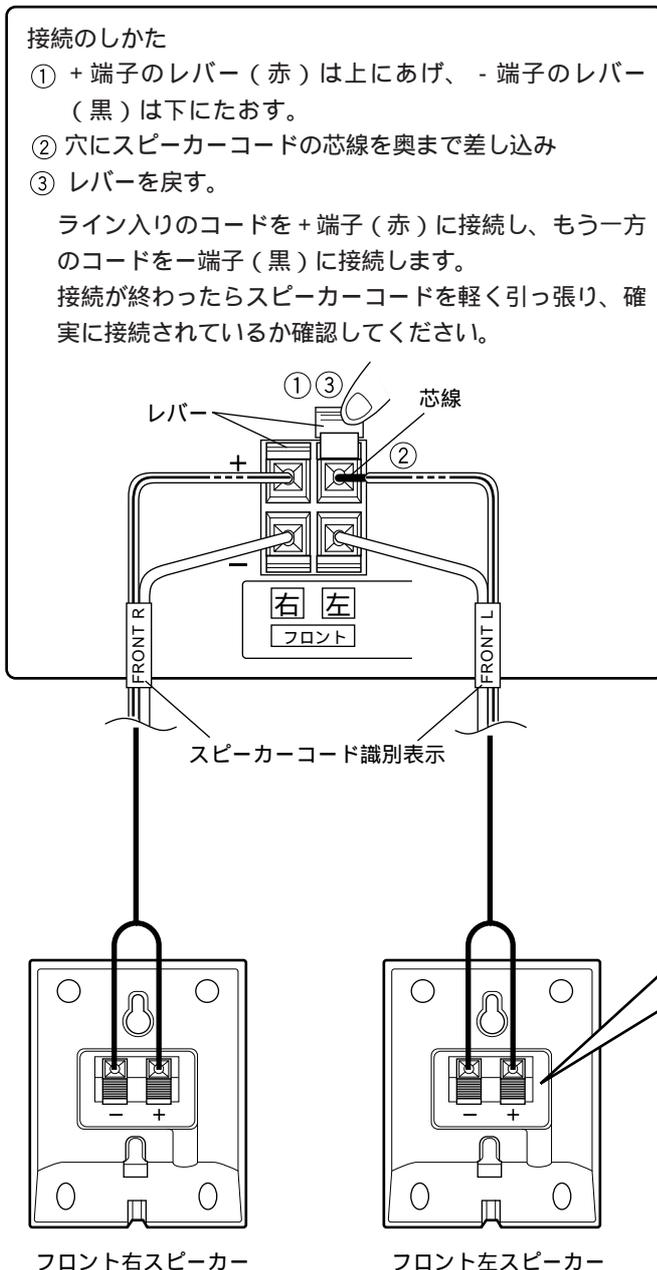
### フロントスピーカー

「FRONT L」「FRONT R」の表示が付いている付属のスピーカーコード（6m）を使って、テレビの両側に置く左右のフロントスピーカーを接続します。

スピーカーコード先端の絶縁部分（ビニール）を引き抜き、先をよじっておきます。（よじりながらビニールを引き抜くと芯線がバラバラになりません。）

フロント左端子にはフロント左スピーカーを接続します。「FRONT L」の表示があるスピーカーコードを使います。

フロント右端子にはフロント右スピーカーを接続します。「FRONT R」の表示があるスピーカーコードを使います。



リアスピーカー

**REAR L** **REAR R** の表示が付いている付属のスピーカーコード (15m) を使って、後方に置く左右のリアスピーカーを接続します。

スピーカーコード先端の絶縁部分 (ビニール) を引き抜き、先をよじっておきます。(よじりながらビニールを引き抜くと芯線がバラバラになりません。)

リア左端子にはリア左スピーカーを接続します。

**REAR L** の表示があるスピーカーコードを使います。

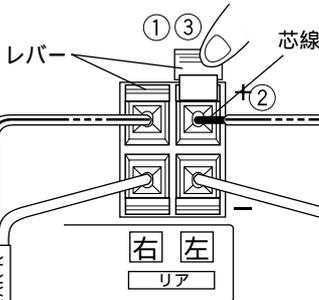
リア右端子にはリア右スピーカーを接続します。

**REAR R** の表示があるスピーカーコードを使います。

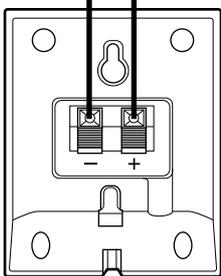
接続のしかた

- ① + 端子のレバー (赤) は上にあげ、- 端子のレバー (黒) は下にたおす。
- ② 穴にスピーカーコードの芯線を奥まで差し込み
- ③ レバーを戻す。

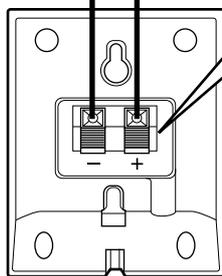
ライン入りのコードを + 端子 (赤) に接続し、もう一方のコードを - 端子 (黒) に接続します。  
接続が終わったらスピーカーコードを軽く引っ張り、確実に接続されているか確認してください。



スピーカーコード識別表示

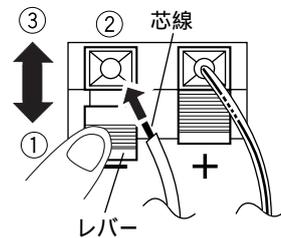
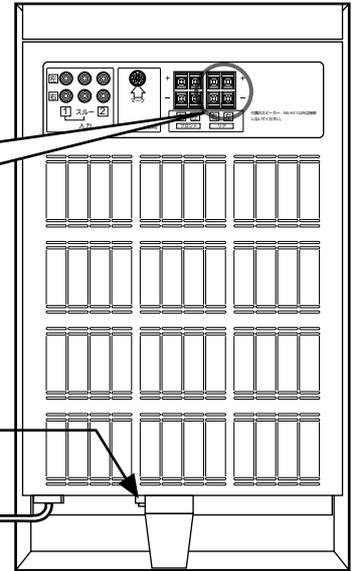


リア右スピーカー



リア左スピーカー

サブウーファー端子  
手を触れないでください。  
下記のご注意をご覧ください。



スピーカー側の接続

- ① レバーを下に押しながら
- ② 穴にスピーカーコードの芯線を奥まで差し込み
- ③ レバーを戻す。(指を離すとレバーが戻ります。)

ライン入りのコードを右側の + 端子 (赤) に接続し、もう一方のコードを左側の - 端子 (黒) に接続します。

接続が終わったらスピーカーコードを軽く引っ張り、確実に接続されているか確認してください。

ご注意

スピーカーコードはプラス (+) とマイナス (-) を間違えないように接続してください。

スピーカーコードはプラス (+) とマイナス (-) がショート (接触) しないように、しっかりと奥まで差し込んでください。しっかり差し込まれていないと、音が出なかったり、雑音が出たり、スピーカーをいためる原因となります。

スピーカーコードは芯線部分だけを端子の穴に接続します。コードの絶縁部分 (ビニール) まで差し込むと音は出ません。スピーカーコードは手や足に引っかからないよう、固定してください。

サブウーファー背面下部にあるサブウーファー端子は、工場出荷時にすでに接続されています。この端子には手を触れないでください。

テレビ・ビデオなど他の機器との接続

接続の前に

各機器の接続はセンタースピーカー（NX-AVS7）とサブウーファー（SW-AVS7）を接続する前に行ってください。接続する機器の電源を必ず切ってから行ってください。

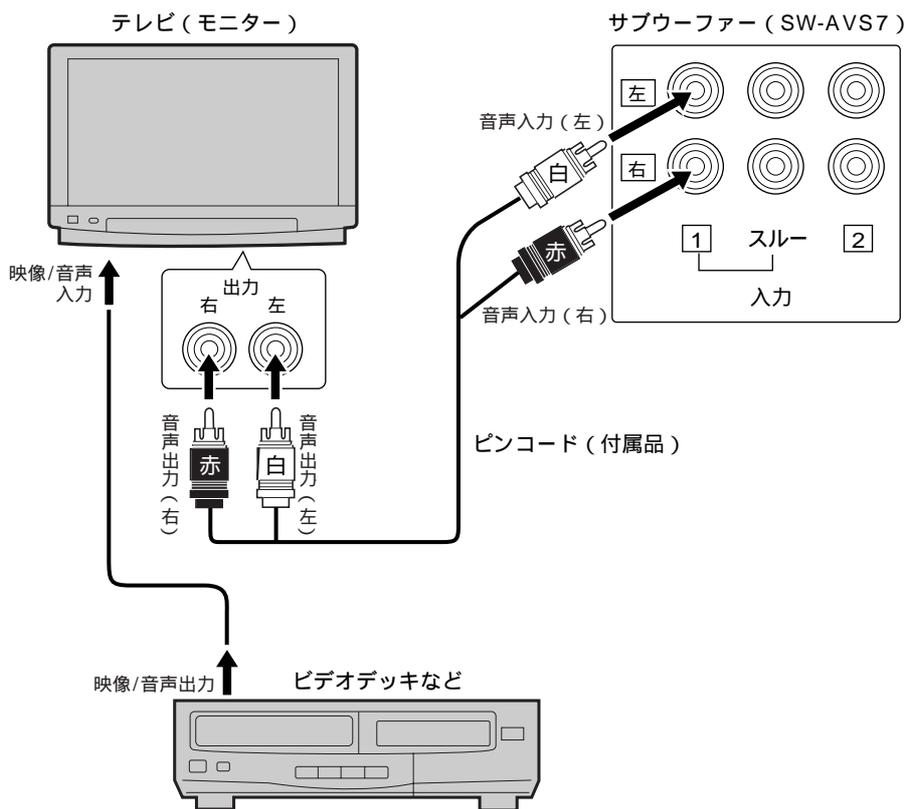
接続のしかた

サブウーファー（SW-AVS7）の音声入力端子とテレビなどの音声出力端子を付属のピンコード（2P）でつなぎます。音声信号の左/L端子（白）には接続コードの白のプラグを、右/R端子（赤）には赤のプラグを接続します。プラグは、しっかり差し込んでください。しっかり差し込まれていないと音が出なかったり雑音の原因となります。

接続する機器によっては接続方法や端子名が異なることがありますので、それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

音声出力端子のあるテレビ（モニター）とのつなぎかた

ピンコードを使って、テレビ（モニター）の音声出力端子とサブウーファー（SW-AVS7）の入力①端子を接続します。テレビからの音声は本スピーカーシステムから聞こえます。（テレビのスピーカーからも聞こえます。）本機の電源を切ると、音声はテレビのスピーカーから聞こえます。

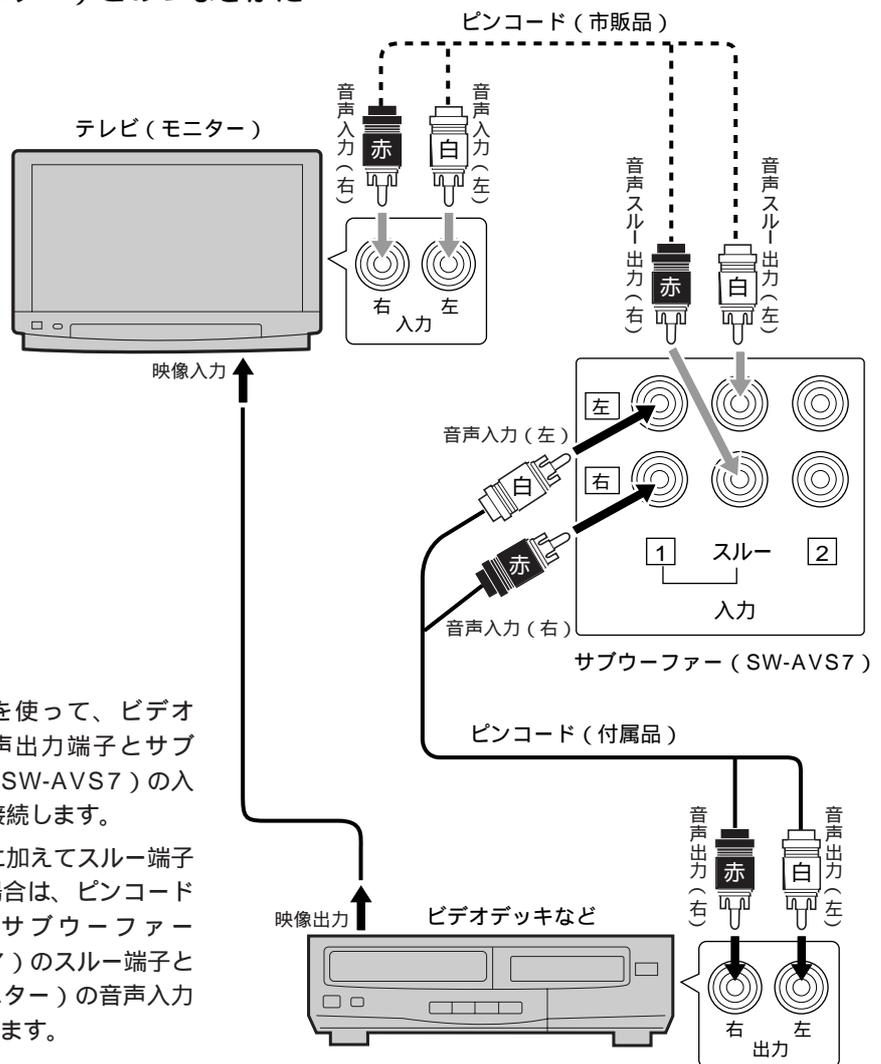


音声出力端子のないテレビ（モニター）とのつなぎかた

入力①端子だけを接続する方法と、入力①端子に加えてスルー端子を接続する方法があります。

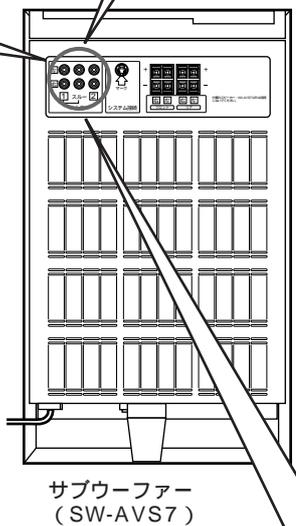
入力①端子だけを接続すると：  
ビデオデッキからの音声は、いつも本スピーカーシステムから聞くことになります。本機の電源を切ると音声は聞こえません。（テレビのスピーカーからも聞こえません。）

入力①端子に加えてスルー端子を接続すると：  
本機の電源を入れると、ビデオデッキからの音声は本スピーカーシステムから聞こえます。本機の電源を切ると、音声はテレビのスピーカーから聞こえます。



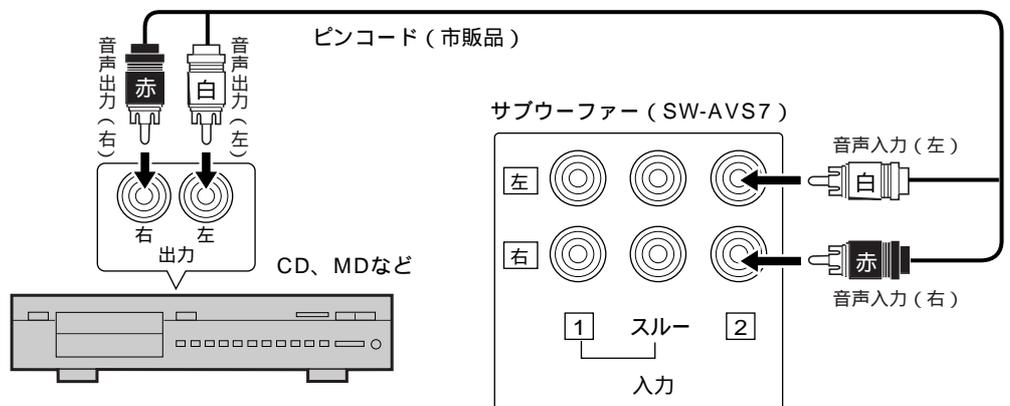
ピンコードを使って、ビデオデッキの音声出力端子とサブウーファー（SW-AVS7）の入力①端子を接続します。

入力①端子に加えてスルー端子を接続する場合は、ピンコードを使って、サブウーファー（SW-AVS7）のスルー端子とテレビ（モニター）の音声入力端子を接続します。



サブウーファー (SW-AVS7)

CD、MDなどのつなぎかた



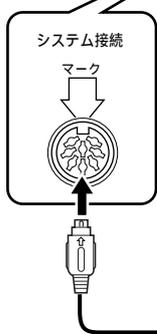
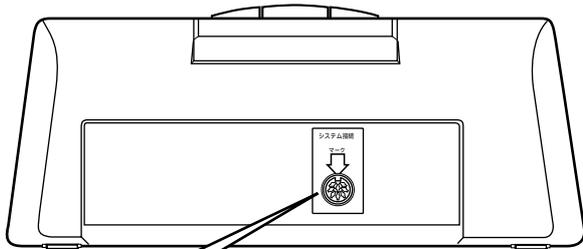
ピンコードを使ってCDやMDなどの音声出力端子とサブウーファー（SW-AVS7）の入力②端子を接続すると、お気に入りの音楽が楽しめます。

## センタースピーカーとサブウーファーのつなぎかた

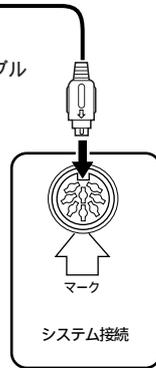
センタースピーカー（NX-AVS7）のシステム接続端子とサブウーファー（SW-AVS7）のシステム接続端子を、システムコネクターケーブルで接続します。

プラグは必ず ◀ マークとおしを合わせて差し込みます。

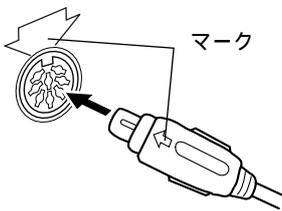
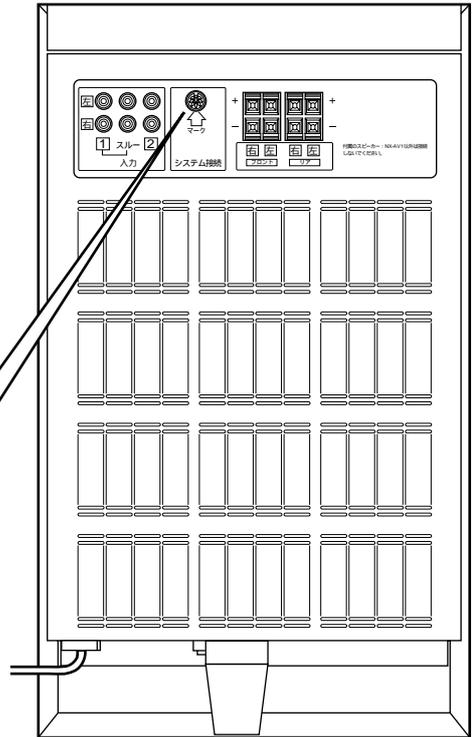
センタースピーカー（NX-AVS7）



付属のシステムコネクターケーブル



サブウーファー（SW-AVS7）



プラグと端子のマークを合わせてから差し込みます。  
センタースピーカー側の ↓ マークは端子の上側に、サブウーファー側の ↑ マークは端子の下側にあります。

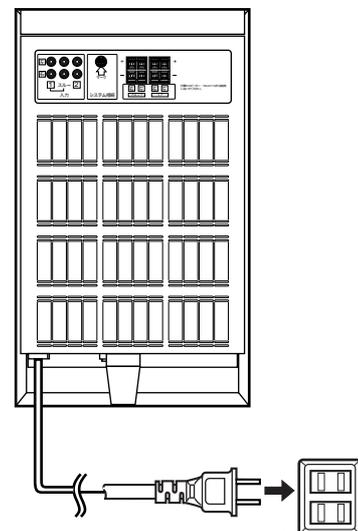
### ご注意

システムコネクターケーブルは傷つけたり、無理に曲げたり、引っ張ったりしないでください。ケーブルが破損して、音が出なくなったり、火災や感電の原因となります。特に、ラックやキャスターで踏みつけたりしないようご注意ください。

## 電源コードの接続

接続が終わったら、もう一度接続を確認してください。  
最後にサブウーファーの電源コードのプラグを、家庭用ACコンセント（100V 50/60Hz）に差し込みます。

電源コードには極性表示（コードの白い線）があります。  
コンセントに電源プラグを差し換えると音質が変わる場合は、好みの方向でコンセントに差し込んでください。



ACコンセント  
100V (50/60Hz)

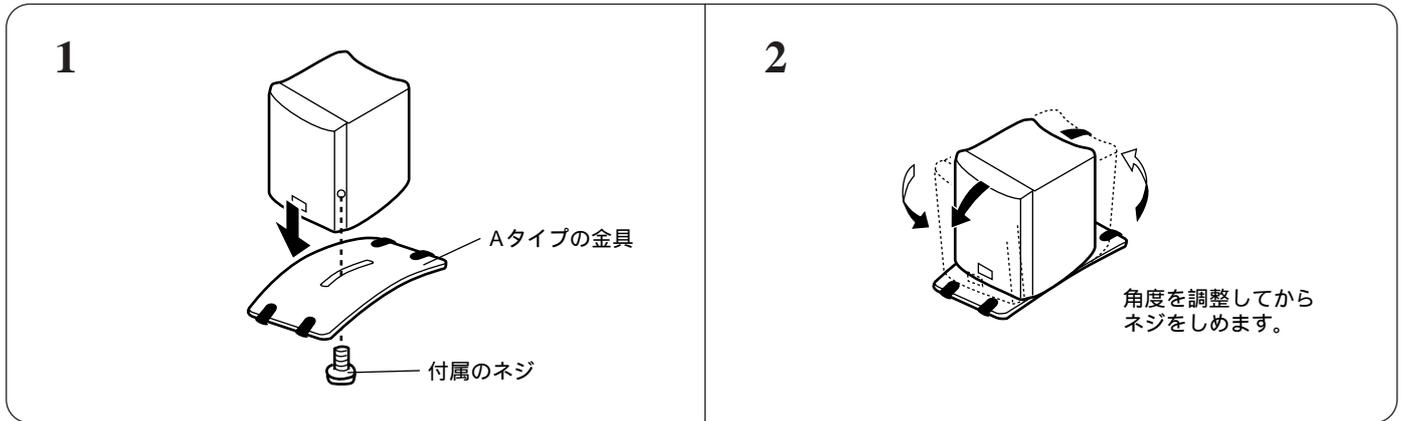
センタースピーカーとサブウーファーのつなぎかた

## スピーカー取り付け金具の使いかた

### フロントスピーカー

Aタイプ（センタースタンド）の金具をフロントスピーカーに取り付けると、スピーカーが安定します。

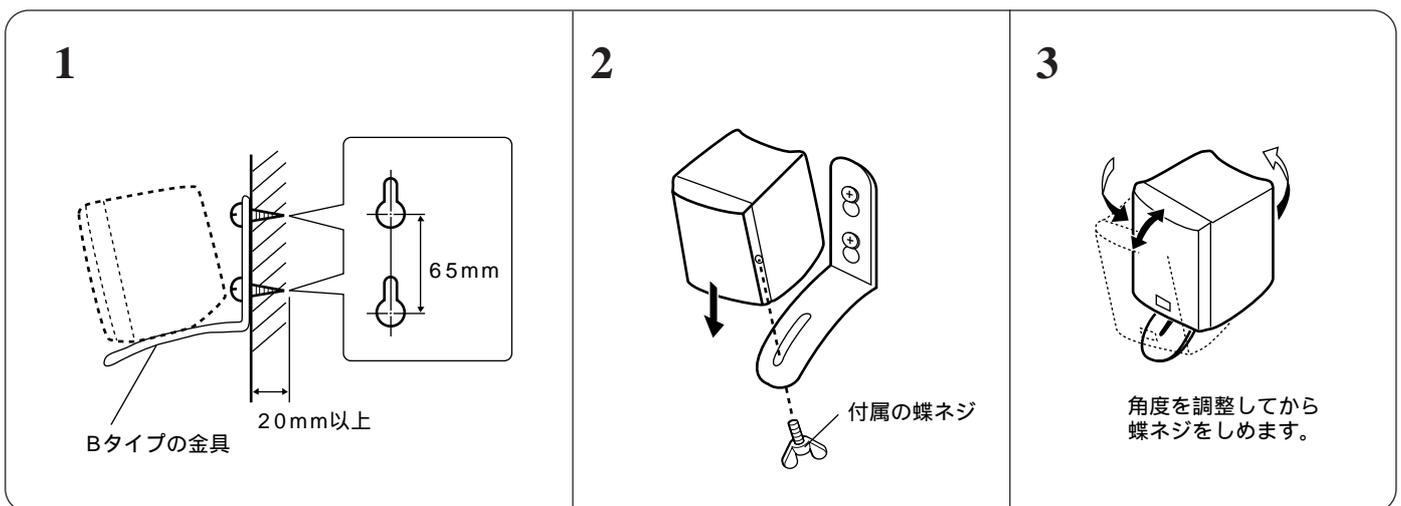
- 1 付属のネジで金具をスピーカー底部に付けます。
- 2 スピーカーの角度を調節し、ネジをしめます。



### リアスピーカー

リアスピーカーを壁に掛けて使用する場合は、付属のBタイプ（ウォールブラケット）の金具を使います。

- 1 リアスピーカーを掛ける場所に2本の木ネジ（市販品：直径4mm程度）を取り付け、木ネジに金具を取り付けます。  
木ネジが、金具の狭い部分に確実に入っていることを確認してください。
- 2 金具に、付属の蝶ネジでスピーカーを付けます。
- 3 スピーカーの角度を調節し、蝶ネジをしめます。



# お使いになる前の準備

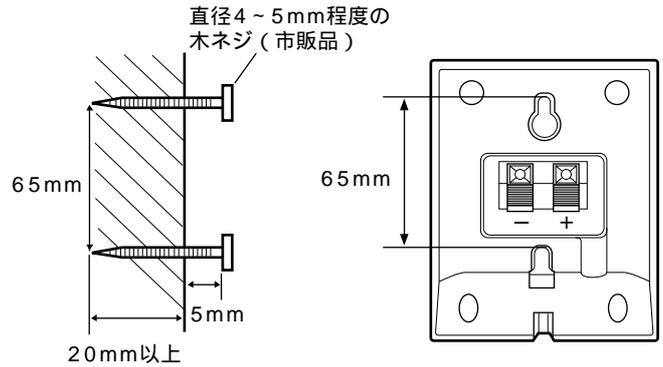
スピーカー取り付け金具の使いかた

## —スピーカーを直接壁に取り付けるときは—

Bタイプの金具を使わずに、壁に2本の木ネジを取り付け、スピーカー背面の穴を利用して壁に掛けることもできます。

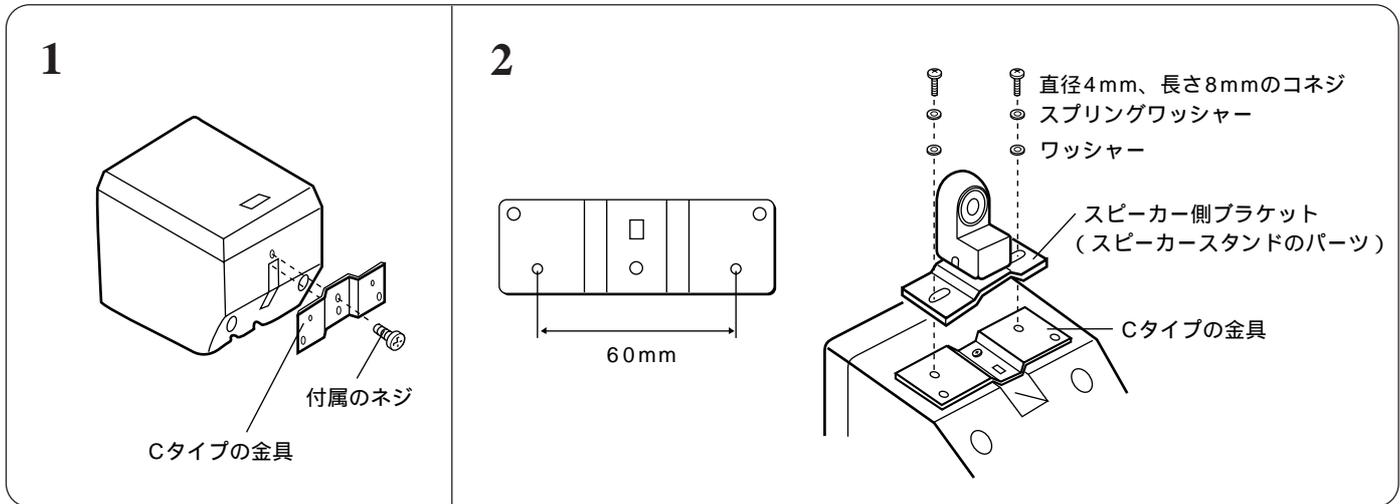
### ご注意

取り付け後は、スピーカーが確実に固定されているか確認してください。



市販のスピーカースタンド（ネジ穴間隔60mm：ヤマハSPM-5など）を使用するときは

- 1 付属のネジで、スピーカー底部にCタイプ（ブラケット）の金具を取り付けます。  
金具の凸部分がスピーカー底部の溝に入るようにします。
- 2 金具の穴（60mm）を使い、金具とスピーカースタンドのスピーカー側ブラケットをネジで固定します。  
直径4mm、長さ8mmのコネジとスプリングワッシャーおよびワッシャーをご用意ください。



### ご注意

（重要なお注意です。必ずお読みください。）  
スピーカーは1台約0.7kgの重量があります。ネジを止める場所は、しっかりとした壁または柱を選んでください。モルタルや化粧ベニア板などはがれやすい材質の壁には取り付けしないでください。ネジが抜けて落下などの危険があります。金具を釘や両面テープなどで取り付けしないでください。使用中の振動で釘がゆるんだり、両面テープがはがれ、スピーカーが落下する危険があります。

スピーカーコードをスピーカーと金具の間に挟まないように注意してください。スピーカーコードはスピーカー背面の溝を通します。  
スピーカーコードを足や手に引っかけて本機を落下させることのないように、コードは固定してください。  
取り付け後は必ず安全性を確認してください。  
取り付け箇所、取り付け方法の不備による事故等の責任は、当社では一切負いかねますのでご了承ください。

センタースピーカー固定テープの使いかた  
 スピーカーを固定したいときに（センタースピーカーをテレビの上に設置するときなど）使います。スピーカーの思いがけない落下を防ぐことができます。

センタースピーカー固定テープはマジックテープになっています。

設置前のご注意

テープをはがした後、接着面には触れないでください。接着強度が弱くなります。

固定テープを貼る部分はきれいに拭いておいてください。ほこりや油、水などが付着していると、テープの接着強度が弱くなり、スピーカーが落下する恐れがあります。

- 1 “トゲトゲ”面の固定テープのシールをはがし、センタースピーカー底面の突起部内側に一枚ずつ貼ります。（下図参照）
- 2 テレビの上など設置する場所にセンタースピーカーを置き、“触って柔らかい”面の固定テープを貼る位置（設置位置）を決めます。

3 “触って柔らかい”面の固定テープのシールをはがし、設置位置に貼ります。

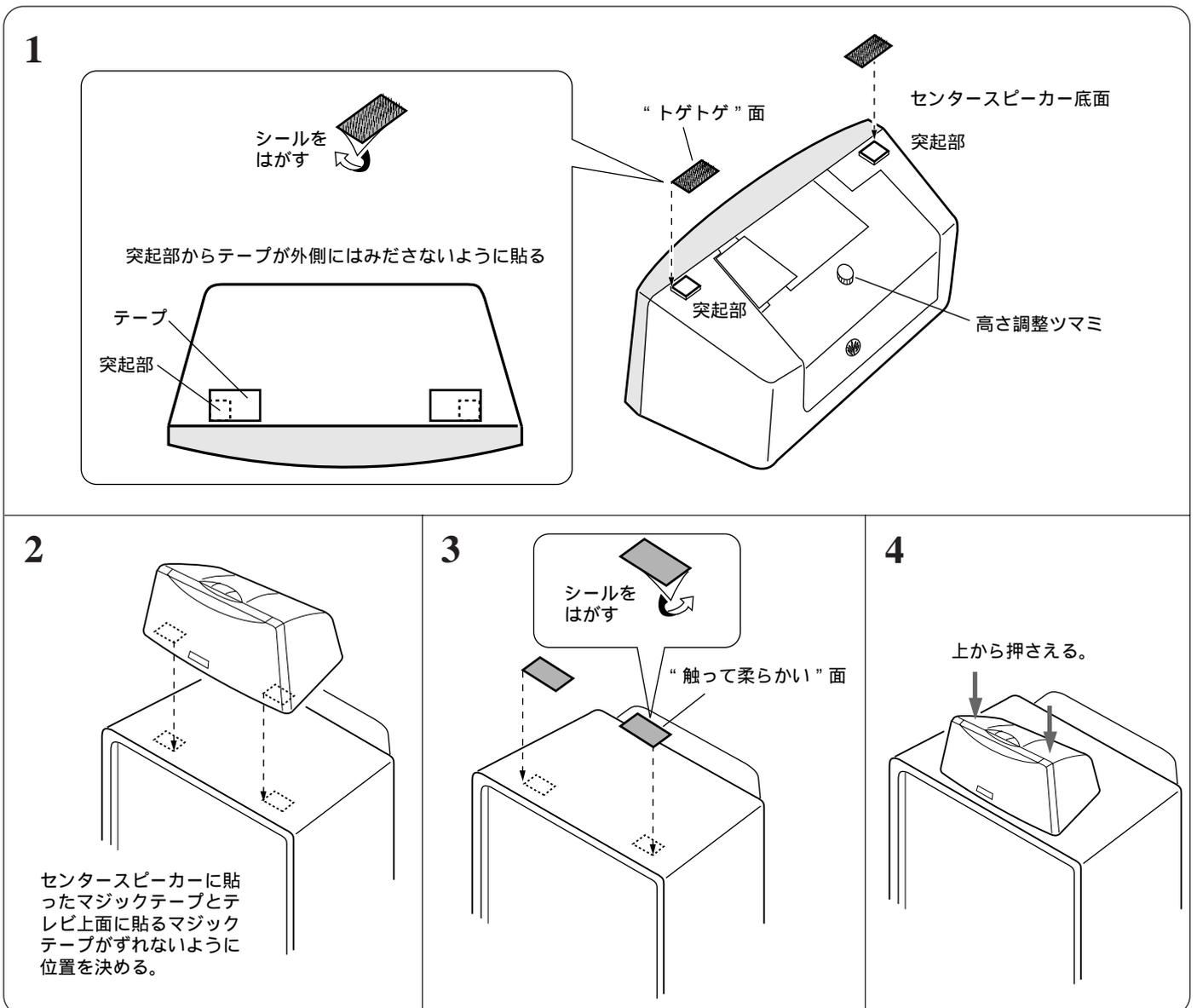
4 固定テープの両面を合わせ、センタースピーカーの上からしっかりと押さえます。

センタースピーカーの高さ調整ツマミについて

設置する場所の表面の形状によってセンタースピーカーがガタついたりする場合は、センタースピーカー底面の高さ調整ツマミを回してセンタースピーカーの後方の高さを調整してください。

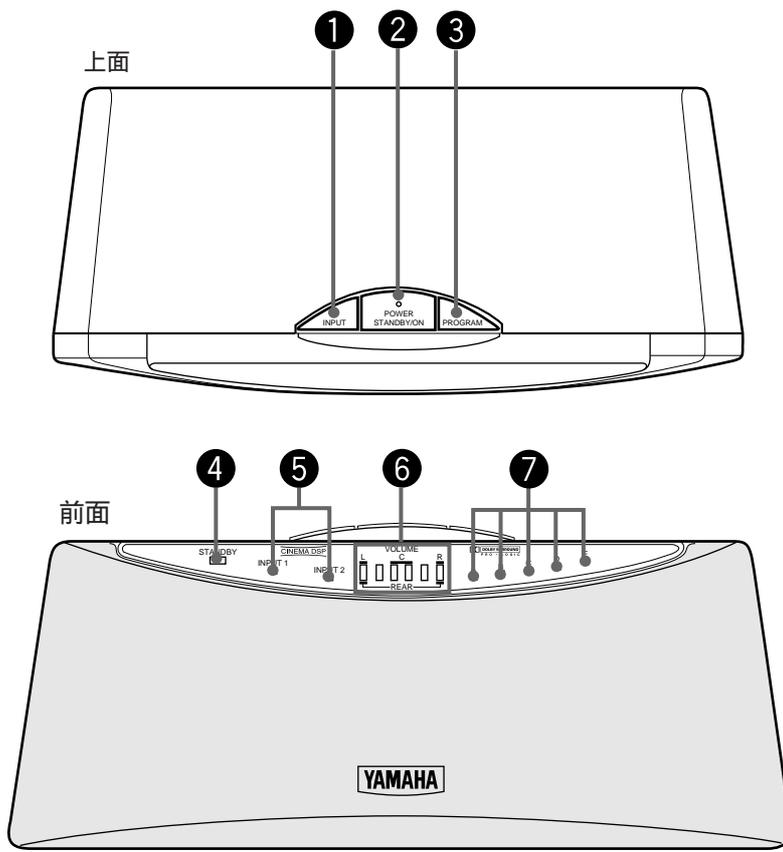
**ご注意**

センタースピーカーを一度固定したあとで、位置変更などの理由で固定テープをはがすと、テレビなどの設置面の塗装がはがれることがあります。設置位置は十分確認したうえで固定テープを貼ってください。



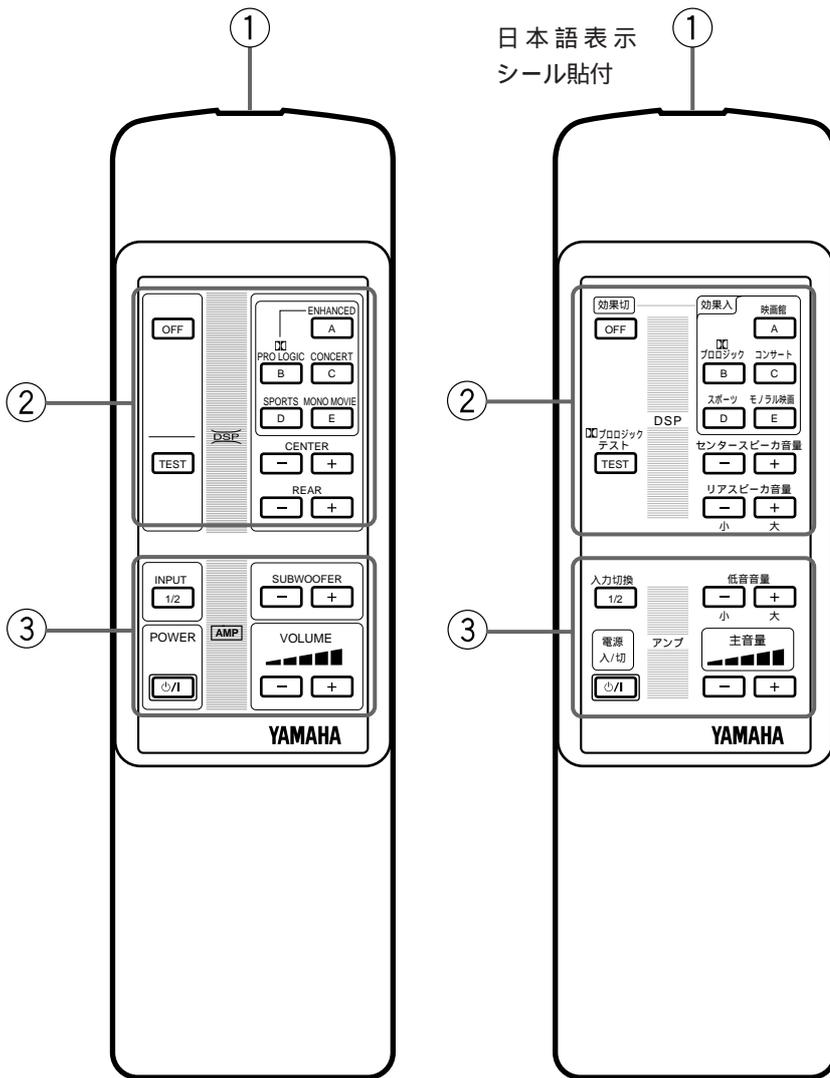
# 各部の名称とはたらき

## センタースピーカー



- インプット  
**① INPUT** 切換キー  
 音声入力を選びます。  
 押すごとにサブウーファー背面の入力**①**と**②**が切り換わり、それに応じてセンタースピーカー前面のINPUT 1またはINPUT 2インジケータが点灯します。
- パワー                      スタンバイ/オン  
**② POWER STANDBY/ON** スイッチ  
 本機の電源を入り/切ります。  
 電源を切るとSTANDBYインジケータが点灯し、電源を入れると消えます。  
 電源が入っても、数秒間は本機のミュート機能の働きにより音は出ません。ミュート中はVOLUMEインジケータが点滅します。
- プログラム  
**③ PROGRAM** キー  
 音場プログラムを選びます。  
 押すごとにA (DOLBY PRO LOGIC ENHANCED) (DOLBY PRO LOGIC                      プロロジック                      エンハンスド)  
 B (DOLBY PRO LOGIC)                      C (CONCERT)                      D (SPORTS) (DOLBY PRO LOGIC                      プロロジック                      コンサート                      スポーツ)  
 E (MONO MOVIE)                      オフ (音場効果なし) の順で切り換わり、それに応じて前面の音場プログラムインジケータA、B、C、DまたはEが点灯します。オフのときはA～Eすべてのインジケータが消えます。
- スタンバイ  
**④ STANDBY** インジケータ  
 電源を切ると点灯します。
- インプット1/インプット2  
**⑤ INPUT 1/INPUT 2** インジケータ  
 INPUT 切換キーで入力**①**を選ぶとINPUT 1インジケータが点灯し、入力**②**を選ぶとINPUT 2インジケータが点灯します。
- ボリューム  
**⑥ VOLUME** インジケータ / **スピーカーレベル** インジケータ  
**ボリューム :**  
 通常は全体の音量を示します。最小レベル (消音) から最大レベルまでをインジケータ6個の点灯で示します。  
**スピーカーレベル :**  
 テストトーンモードでは、テストトーンを出しているスピーカーのインジケータが点滅します。センタースピーカーおよびリアスピーカーのレベルを調節するとレベルに応じてインジケータが点灯します。  
 サブウーファーのレベルを調節したときもレベルに応じてインジケータが点灯します。
- ⑦ 音場プログラム** インジケータ  
 選択した音場プログラムに応じてA～Eのインジケータが点灯します。音場プログラムがオフのときは、A～Eすべてのインジケータが消えます。

リモコン



① 送信窓  
リモコンのコントロール信号を送信します。

② <sup>ディーエスピー</sup>DSPエリア  
<sup>オフ</sup>OFF (効果切) :  
音場プログラムの効果を切ります。  
A ~ E : 音場プログラムを選びます。各キーを押すと次のように音場プログラムが選ばれます。( 22 ~ 23ページ)

A : <sup>ドルビー プロロジック</sup>  PRO LOGIC <sup>エンハンスト</sup> ENHANCED  
( 映画館 )  
B : <sup>ドルビー プロロジック</sup>  PRO LOGIC  
( ドルビープロロジック )  
C : CONCERT (コンサート)  
D : SPORTS (スポーツ)  
E : MONO MOVIE (モノラル映画)

<sup>テスト</sup>TEST (ドルビープロロジックテスト) :  
テスト信号を入り/切りします。  
テストモードでセンターおよびリアスピーカーの音量を調節するときに使います。  
( 24ページ)

<sup>センター</sup>CENTER +、- (センタースピーカー音量) :  
センタースピーカーの音量を調節するときに使います。+キーを押すと音量が大きくなり、-キーを押すと小さくなります。

<sup>リア</sup>REAR +、- (リアスピーカー音量) :  
リアスピーカーの音量を調節するときに使います。+キーを押すと音量が大きくなり、-キーを押すと小さくなります。

③ <sup>アンプ</sup>AMPエリア  
<sup>インプット</sup>INPUT (入力切換) 1/2 :  
サブウーファー背面の入力①または②を選びます。押すたびに入力①と②が切り換わります。

<sup>パワー</sup>POWER (電源入/切) /I :  
電源を入り/切りします。

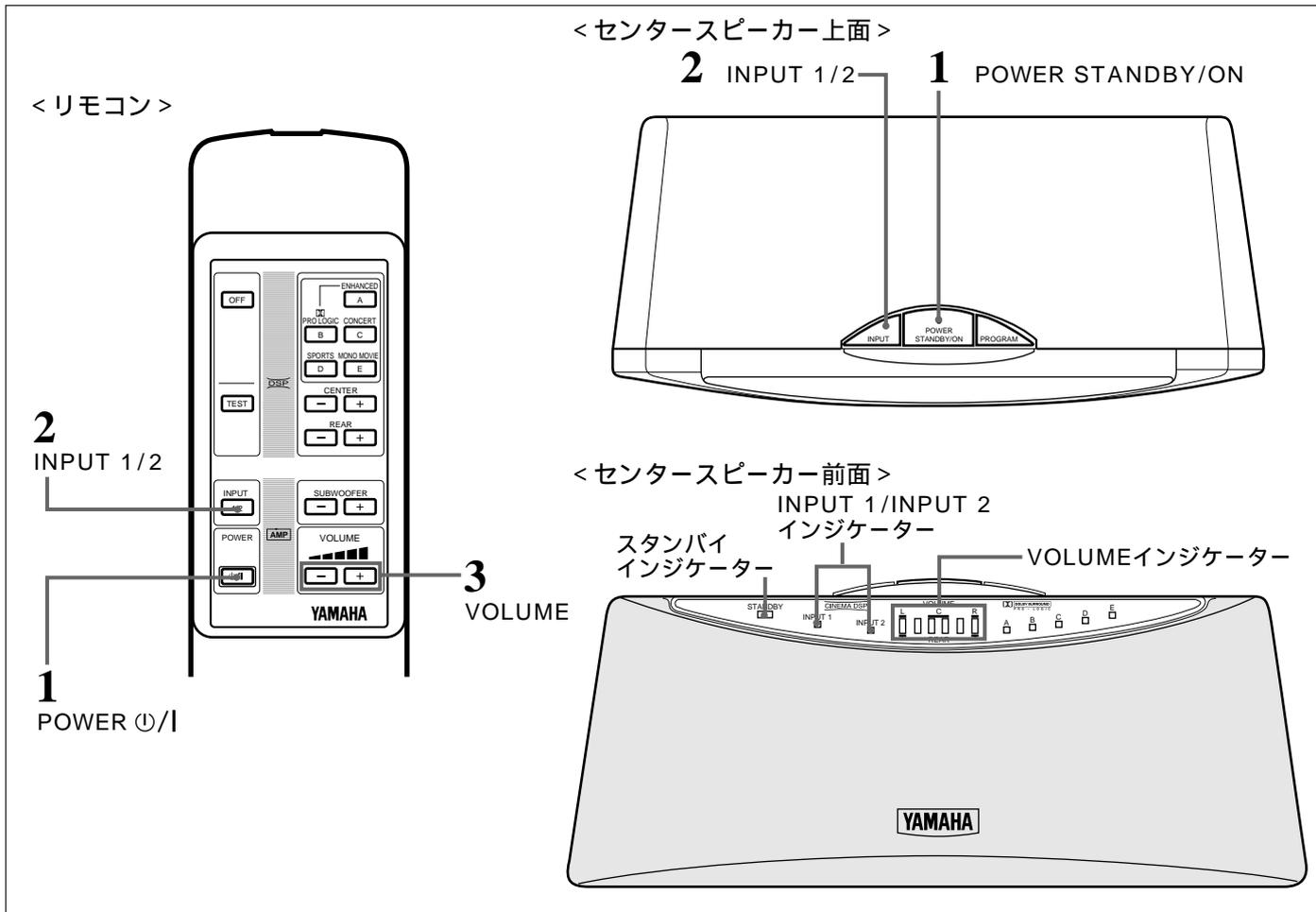
<sup>サブウーファー</sup>SUBWOOFER (低音音量) +、- :  
サブウーファーの音量を調節します。

<sup>ボリューム</sup>VOLUME (主音量) +、- :  
+キーを押すとスピーカーシステム全体の音量が大きくなり、-キーを押すと小さくなります。

日本語表示シールについて  
必要に応じて付属の「日本語表示シール」をリモコンに貼ってください。

リモコンの蓄光機能について  
本リモコンのキーには蓄光機能があり、暗いところではキーが光ります。  
光らなくなったら、明るいところにしばらく置いて蓄光させてください。

# 基本操作



POWERキー（センタースピーカーではPOWER STANDBY/ONキー）を押して電源を入れます。

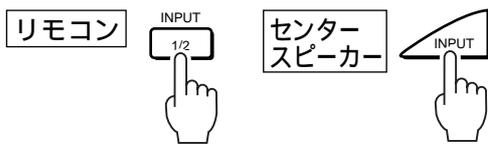
1



電源を切るには、もう一度POWERキーまたはPOWER STANDBY/ONキーを押します。STANDBYインジケータが点灯します。

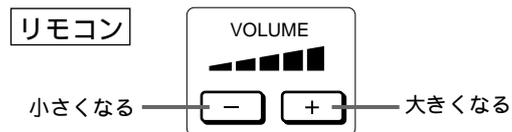
INPUT 1/2キー（センタースピーカーではINPUTキー）を押して入力を選びます。

2



押すごとにサブウーファー背面の入力①と②が切り換わり、選んだ入力に応じてセンタースピーカー前面のINPUT 1またはINPUT 2インジケータが点灯します。入力①にテレビ（またはビデオデッキ）、入力②にCD（またはMD）を接続している場合、テレビやビデオデッキからの音声を聞くときはINPUT 1を選び、CDやMDの音声を聞くときはINPUT 2を選びます。

リモコンのVOLUME +または-キーで音量を調節します。



VOLUME +キーを押すと音が大きくなり、-キーを押すと小さくなります。

3

最小（消音）から最大まで66段階で調節でき、音量レベルをセンタースピーカー前面のVOLUMEインジケータで示します。



■は点灯を示します。

VOLUMEインジケータは大体のレベルを示します。音量調節の目安にしてください。

**ご注意**

CDやMDは音の強さの変化範囲が広がっています。小さい音から大きな音に急激に変化する音楽などを大きな音量（最大付近）で長時間再生すると、スピーカーを破損する恐れがありますので、音量に注意してください。

**音場効果について**

5種類の音場プログラムの中からソースに合った音場効果をかけてお楽しみいただけます。詳しくは、次ページの「音場効果を楽しむ」をご覧ください。

**ご注意**

本機は電源を切っても、電源プラグがACコンセントに差し込まれていると、メモリー保持のため微弱な電力を消費します（スタンバイ状態）。したがって長期間本機をご使用にならないときは、電源コードをACコンセントから抜いてください。その場合、約1週間でメモリー内容（スピーカーの音量設定など）はすべて消えます。再度設定しなおしてください。

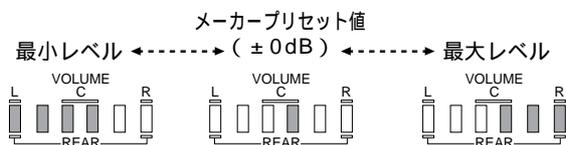
**サブウーファーの音量調節**

リモコンのSUBWOOFERの+キーを押すとサブウーファーの音量が大きくなり、-キーを押すと小さくなります。



キーを押し続けると連続的に調節できます。連続的に調節しているとき、いったん停止するところが基準値です。平均的な音量レベルですので、これを目安に調節してください。

最小から最大まで31段階で調節でき、音量レベルをセンタースピーカー前面のVOLUMEインジケータで示します。



■は点灯を示します。

VOLUMEインジケータは大体のレベルを示します。音量調節の目安にしてください。

# 音場効果を楽しむ

本機は映画館やコンサートホールで体験するような臨場感をリスニングルームに再現する、デジタルサウンドフィールドプロセッサー（DSP）を搭載しています。5種類の音場プログラムの中から、再生するソースに合ったプログラムを選んで、ヤマハCINEMA DSPの世界をお楽しみください。

## 各音場プログラムの特長

No	音場プログラム	特長および最適ソース
A	<small>ドルビー プロ ロジック</small>  <small>エンハンスド</small> PRO LOGIC* ENHANCED	ドルビープロ・ロジックのサラウンド信号を周囲に広げ3.5mm映画館のマルチサラウンドシステムを再現します。
B	<small>ドルビー プロ ロジック</small>  <small>エンハンスド</small> PRO LOGIC*	ドルビーサラウンドで記録されたソースの再生用。セパレーションに優れ安定した効果が得られます。
C	<small>コンサート</small> CONCERT	ロック/ジャズなどのライブコンサートの雰囲気再現します。
D	<small>スポーツ</small> SPORTS	各種スポーツ中継番組に適した音場効果です。
E	<small>モノ ムービー</small> MONO MOVIE	古典的な映画館の音場を再現します。程良い響きと広がりがあり、懐かしい名画の再生に適しています。ソースがモノラルのときに効果を発揮します。

各音場プログラムの特長

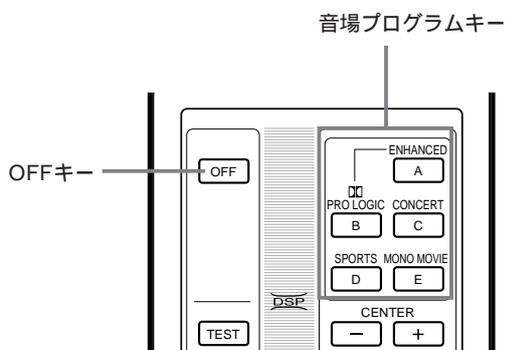
実測された音場データを採用しているため、プログラムによっては効果音の左右バランスが異なるものがあります。プログラムNo.AとNo.Bは方向性強調回路を使用していますので、ソースがモノラルの場合、リアスピーカーから音は出ません。プログラムNo.C、D、Eはセンタースピーカーから音は出ません。

\* ドルビープロ・ロジックはドルビーラボラトリーズライセンスングコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。ドルビー、PRO LOGIC及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズライセンスングコーポレーションの登録商標です。

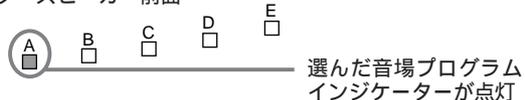
## 音場プログラムの選びかた

## &lt;リモコン&gt;

A～Eの音場プログラムキーを押します。



## センタースピーカー前面



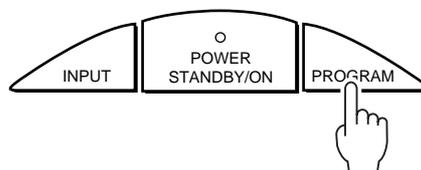
選んだ音場プログラム  
インジケーターが点灯

- A : ドルビー プロロジック エンハンスド  
 PRO LOGIC ENHANCED
- B : ドルビー プロロジック  
 PRO LOGIC
- C : コンサート  
 CONCERT
- D : スポーツ  
 SPORTS
- E : モノ ムービー  
 MONO MOVIE

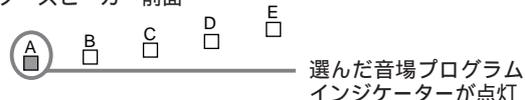
選んだ音場プログラムに応じて、センタースピーカー前面の音場プログラムインジケーターA、B、C、DまたはEが点灯します。

## &lt;センタースピーカー&gt;

PROGRAMキーを使います。

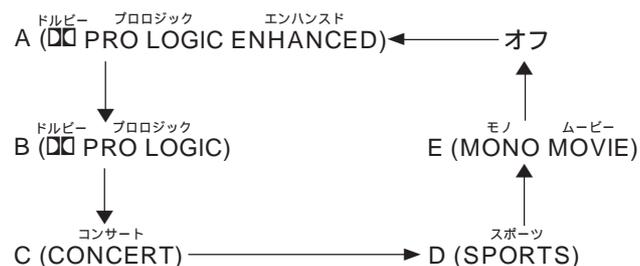


## センタースピーカー前面



選んだ音場プログラム  
インジケーターが点灯

キーを押すごとに、音場プログラムが次のように切り換わり、センタースピーカー前面の音場プログラムインジケーターA、B、C、DまたはEが点灯します。オフにするとA～Eのすべてのインジケーターが消え、音場効果ははたらきません。



お聴きになるソース（音源）の雰囲気にあった音場プログラムを選んでください。

ソース（入力①/②）ごとに、最後に使用していたプログラムがメモリーされるので、入力を切り換えるごとにプログラムも自動的に切り換わります。

## 音場効果を切るには

音場効果を切ると通常のステレオ再生になります。

## リモコン

OFFキーを押します。

## センタースピーカー

PROGRAMキーを何回か押して音場プログラムインジケーターA～Eをすべて消します。

## メモ

PRO LOGIC ENHANCEDおよび PRO LOGICの音場効果を十分に発揮させるためには、各スピーカーの音量合わせが必要です。次ページをご覧ください。

## スピーカーの音量調節

ドルビーサラウンド処理されたソース（音源）を再生するときにはDOLBY PRO LOGIC ENHANCEDやDOLBY PRO LOGICの音場効果を十分に発揮させるためには、センターおよびリアスピーカーの音量がフロントスピーカーと同じになるように調節する必要があります。

また、他の音場プログラムで再生するときも、スピーカーの音量が調節されていると、それぞれの音場の持ち味を引き出すことができます。

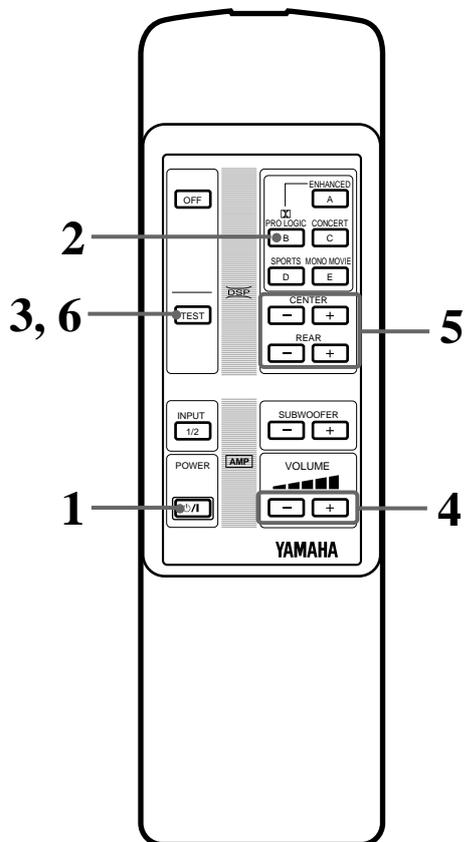
本機のテストトーン機能で簡単に調節できます。

一度調節しておけば、スピーカーの置きかたや部屋を変えない限り、再調節の必要はありません。

調節は日常お聴きになる位置で、リモコンを使って行います。

## ご注意

フロントスピーカーの音量を基準にして調節してください。



1 POWERキーを押して電源を入れます。

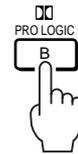
1



2 B (DOLBY PRO LOGIC)キーを押します。

音場プログラムA～Eのいずれかが選ばれていれば、Bキーを押す必要はありません。

2



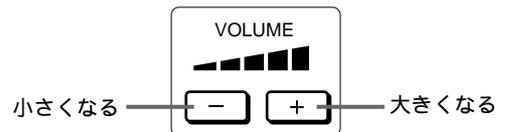
3 TESTキーを押します。

B (DOLBY PRO LOGIC) 以外を選んでいるときは、自動的にDOLBY PRO LOGIC が選ばれます。

3

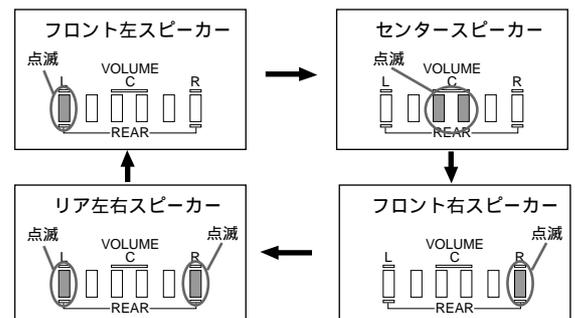


4 VOLUME + または - キーを押して、テストトーンの音量を調節します。



テストトーン（ザー音）が約2.5秒ずつ、各スピーカーを巡回して聞こえます。テストトーンを出しているスピーカーをセンタースピーカー前面のインジケータが点滅して示します。

4

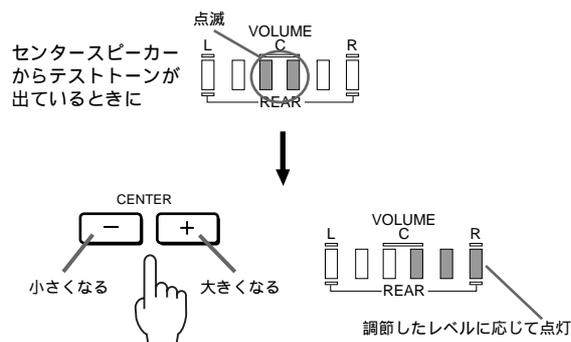


テストトーンが聴こえない場合や、インジケータの点滅が示すスピーカーと聞こえるスピーカーが異なる場合は、一度音量を下げ、電源を切ってからスピーカーの接続を確認してください。

センタースピーカーおよびリアスピーカーの音量がフロントスピーカーと同じになるように調節します。

#### センタースピーカーの音量調節

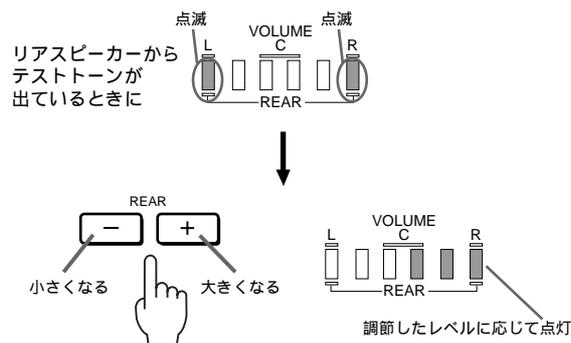
センタースピーカーからテストトーンが出ているときに、CENTER + または - キーを押して、センタースピーカーの音量がフロントスピーカーの音量と同じになるように調節します。



最小レベルから最大レベルまで3段階で調節できます。  
調節中は、センタースピーカーからテストトーンが出続けます。

#### リアスピーカーの音量調節

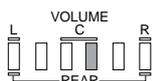
リアスピーカーからテストトーンが出ているときに、REAR + または - キーを押して、リアスピーカーの音量がフロントスピーカーの音量と同じになるように調節します。



最小レベルから最大レベルまで3段階で調節できます。  
調節中は、リアスピーカーからテストトーンが出続けます。

#### メモ

キーを押し続けると連続的に調節できます。  
連続的に調節しているとき、いったん停止するところが基準値です。平均的な音量レベルですので、これを目安に調節してください。



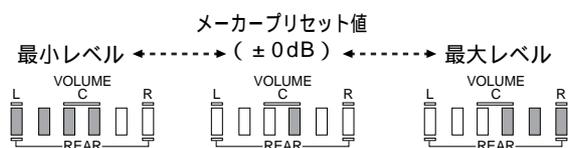
調節が終わったら、TESTキーを押します。  
テストトーンが消えます。

6



#### レベルインジケータについて

センタースピーカーやリアスピーカーの音量調節中は、VOLUMEインジケータがそれぞれのレベルを示します。



■は点灯を示します。  
インジケータは大体のレベルを示します。音量調節の目安にしてください。

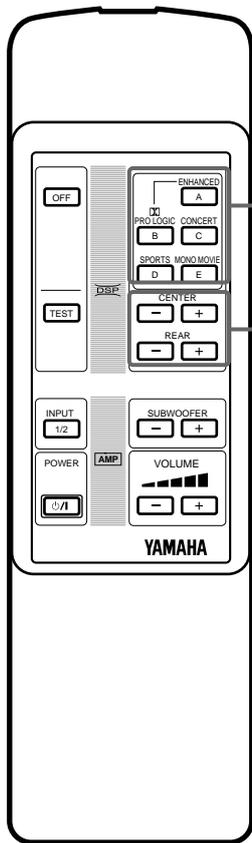
5

再生音を聴きながら調節する

テストトーンで調節したあとでも、実際に音場プログラムを使って再生される音を聴きながら、センタースピーカーやリアスピーカーの音量を調節することができます。

ご注意

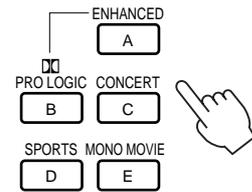
音場プログラムA (DOLBY PRO LOGIC ENHANCED) と B (DOLBY PRO LOGIC) ではセンタースピーカーおよびリアスピーカーの音量調節ができます。C (CONCERT)、D (SPORTS)、E (MONO MOVIE) ではリアスピーカーのみの音量調節ができます。



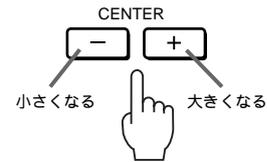
再生音を聴きながら調節する

音場プログラムを使って再生します。

1

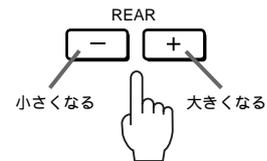


センタースピーカーの音量を調節するときは CENTER + または - キーを押します。



リアスピーカーの音量を調節するときは REAR + または - キーを押します。

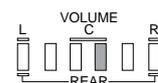
2



最小レベルから最大レベルまで31段階で調節できます。

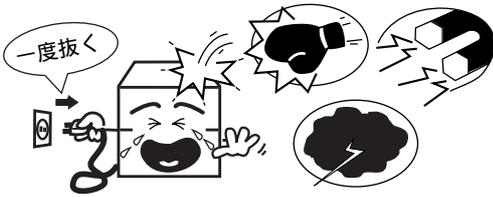
キーを押し続けると連続的に調節できます。

連続的に調節しているとき、いったん停止するところがメーカープリセット値 (初期値: ±0dB) です。



# 故障かなと思ったら

次のような場合は故障でないことがありますので、修理やアフターサービスをお申し付けになる前にあらかじめお調べください。



本機を使用中に、強い外来ノイズ（衝撃、過大な静電気、または落雷による電源電圧の異常など）を受けた場合や誤った操作をした場合などに、操作を受けつけなくなるなどの異常が発生することがあります。

このようなときは、いったん電源プラグを抜き、約30秒後に再びつないで操作をやり直してみてください。

こんなとき

ここをおたしかめください

参照ページ

音が出ない。	電源コードが接続されていますか？ システムコネクターケーブルが正しく接続されていますか？ 入力切替が間違っていないですか？ スピーカーコードがスピーカー端子からはずれていませんか？	14 14 20 10~11
低音が出ない。 音源の位置が不明りょう。	スピーカーの極性（+、-）のつなぎかたが逆になっていませんか？	10~11
“ブーン”という雑音が入る。	電源コードを伝わってくる電波が電源周波数によって変調をうけることがあります。 電源差し込みプラグの左右を逆に差しかえてみてください。	14

## 音場プログラムを使うとき

センター、リアスピーカーから音が出ない。	センタースピーカー前面の音場プログラムインジケーターが消えていませんか？ センター、リアスピーカーの音量が下げられていませんか？	23 24~26
センタースピーカーから音が出ない。	音場プログラムのCやD、Eを使っていませんか？	22
リアスピーカーから音が出ない。	モノラルソースを音場プログラムのAやBを使って再生していませんか？	22

### リモコンを使うとき

正しい動作をしない。

乾電池が消耗していませんか？  
受信部に正しく向けていますか？  
受信部との距離が遠すぎませんか？  
または近すぎませんか？  
受信部に強い日光や照明(インバーター蛍光灯など)があたっていませんか？  
他の機器のリモコンを同時に操作していませんか？  
乾電池の ⊕ ⊖ が逆になっていませんか？

8

### 本機をテレビの近くに置いているとき

“キーン”や“ブーン”という雑音が入る。

使用するテレビによっては、テレビから雑音が入ることがあります。テレビと本機の位置を左右入れかえるか、雑音がなくなるまで離してください。

—

他のチューナーやテレビに雑音や映像の乱れが生じる。

室内アンテナを使用しているチューナーやテレビを近くに置いていませんか。特に、室内アンテナを使用しているチューナーやテレビに起こりやすいので、屋外アンテナの使用をおすすめします。

—

# 仕様について

## アンプ部

定格出力	
フロント	30W + 30W (1kHz、10% THD、6 )
センター	30W (1kHz、10% THD、6 )
リア	30W + 30W (1kHz、10% THD、6 )
サブウーファー	50W (100Hz、10% THD、4 )
S/N比	85dB (INPUT 1、IHF-A)
全高調波歪率	0.08% (入力: INPUT 1、1kHz、12.5W / 6 )
入力感度 / インピーダンス	INPUT 1、100mV / 20k

## スピーカー

フロント、リアスピーカー	
型名	NX-AV1
型式	密閉型
スピーカー	8 cm コーン、防磁型
最大許容入力	40W
インピーダンス	6
センタースピーカー	
型名	NX-AVS7
型式	密閉型
スピーカー	8 cm コーン、防磁型
最大許容入力	40W
インピーダンス	6

## サブ(スーパー)ウーファー

型名	SW-AVS7
型式	アクティブサーボプロセッシング方式 バスレフ型
スピーカー	20cm コーン、防磁型
最大許容入力	60W
インピーダンス	4

## 総合

電源/電圧	AC 100V 50/60Hz
消費電力	140W
寸法(幅)×(高さ)×(奥行き)	
NX-AV1	94 × 117 × 108mm
NX-AVS7	280 × 117 × 125mm
SW-AVS7	250 × 425 × 418mm
重量	
NX-AV1	0.7kg
NX-AVS7	1.3kg
SW-AVS7	14.5kg
付属品	リモコン × 1 単3乾電池 × 2 日本語表示シール(リモコン用) × 1 システムコネクターケーブル × 1 ピンコード × 1 スピーカーコード × 4(6m × 2、15m × 2) スピーカー取り付け金具 × 8 (Aタイプ × 2、Bタイプ × 2、Cタイプ × 4) ネジ × 4 蝶ネジ × 2 センタースピーカー固定テープ × 2セット

本機は「高調波ガイドライン」適合品です。

\* 「高調波ガイドライン」適合品とは、通産省・資源エネルギー庁の定めた「家電・汎用品高調波抑制対策ガイドライン」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルを考慮して設計・製造した製品です。

\* 仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

本システムはセンタースピーカー（NX-AVS7）またはサブウーファー（SW-AVS7）単体では動作しませんので、センタースピーカーとサブウーファーのセットで修理をご依頼ください。

## ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただけるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

### 保証期間

お買上げ日より1年間です。

### 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

### 保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

### 修理料金の仕組み

- 技術料 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
- 部品代 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- 出張料 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

### 補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年(テープデッキは6年)です。この期間は通商産業省の指導によるものです。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

### 持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

### 製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。

品番、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

### 摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境或使用時間等によって大きく異なります。本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお勧めします。摩耗部品の交換は必ずお買上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

### 摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

ヤマハAV製品に対するお問合せ窓口  
AVお客様ご相談センター  
TEL (03) 5488 - 5500

### ヤマハ電気音響製品サービス拠点

(ヤマハAV製品の故障に関するご相談窓口および修理受付、修理品お持ち込み窓口)

- 北海道 〒064-0810 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内  
TEL (011) 512 - 6108
- 仙台 〒984-0015 仙台市若林区卸町5-7  
仙台卸商共同配送センター3F  
TEL (022) 236 - 0249
- 首都圏 〒211-0025 川崎市中原区木月1184  
TEL (044) 434 - 3100
- 東京 (お持ち込み修理のみ取扱い)  
〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11  
TEL (03) 5488 - 6625
- 浜松 〒435-0048 浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内  
TEL (053) 465 - 6711
- 名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2-1-2  
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F  
TEL (052) 652 - 2230
- 大阪 〒565-0803 吹田市新芦屋下1-16  
ヤマハ(株)千里丘センター内  
TEL (06) 877 - 5262
- 広島 〒731-0113 広島市安佐南区西原6-14-14  
TEL (082) 874 - 3787
- 四国 〒760-0029 高松市丸龜町8-7 ヤマハミュージック高松店内  
TEL (0878) 22 - 3045
- 九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4  
TEL (092) 472 - 2134

### 愛情点検



永年ご使用の本機の点検を！

こんな症状はありませんか？

電源コード・プラグが異常に熱い。  
コゲくさい臭いがする。  
電源コードに深いキズが変形がある。  
製品に触れるとビリビリと電気を感ずる。  
電源を入れても正常に作動しない。  
その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。  
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

### ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中沢町10-1  
AV機器事業部  
営業部 TEL (053) 460 - 3451  
品質保証室 TEL (053) 460 - 3405  
住所および電話番号は変更になることがあります。



**YAMAHA**